

「道の駅」などにある農産物直売所などを利用した人が、2018年度、1970万人と過去最多を更新したことが県のまとめで分かった。生産者の顔が見え、気軽に利用できることが

魅力とみられ、関係者は「東日本大震災で一時減少したが、その後は幅広い年齢層の方々に訪れていただいたおかげ」と分析している。(北浜修)

農産物直売所

担当者は「トマトは年間を通して堅調で、いまは秋のものでサツマイモ、ナシ、キノコ類など。冬から春にかけてはネギ、イチゴなどの人気が高い」と説明する。同課は「地域の農産物が集まり、生産者の顔が見える。消費者にとって、都市部の店舗などには魅力があるのでないか。リピ

農村レストラン

県農村振興課によると、過去の利用者数は二〇一一年度は東日本大震災の影響を受け千二百八十一万人だったが、毎年度、右肩上がりで増え、一八年度まで、七年連続で過去最多を更新している。売上高の上位三カ所は、農産物直売所では、「道の駅うつのみや」「ろまんちっく村」を運営するJAしおのや農産物直売所さくら(さくら市)、「道の駅どまんなかたぬま」朝採り館(佐野市)の順。

「ろまんちっく村」を運営するJAしおのや農産物直売所さくら(さくら市)、「道の駅うつのみや」「ろまんちっく村」の農産物直売所=宇都宮市で

18年度「生産者の顔見える」「気軽さ」魅力



買い物客でにぎわう、県内売上高ナンバーワンとなった「道の駅うつのみや」「ろまんちっく村」の農産物直売所=宇都宮市で

利用者

7年連続

最多更新 1970万人

ーターも多い」と推測している。一方、道の駅などに設けられており、農村レストランで最も売上が多いのは「道の駅東山道伊王野」水車館(那須町)。次いで「道の駅やいた」つづじ亭(矢板市)、「道の駅にしかた」ふるさと一番(栃木市)の順。

一八年度の売上高は、農産物直売所が前年度に比べ一億円多い百円減少した。農村レストランの売上高が減った理由について、関係者は「団体客に比べ、飲食代が少なくなる傾向にある少人数の日帰り旅行客が近年、増えていることが影響している」とみている。

トマトなど地元産野菜売れ筋

五十六億円と過去最高だったが、農村レストランは二十億円と、過去最高だった前年度に比べ三千万円減少した。

農村レストランの売上高が減った理由について、関係者は「団体客に比べ、飲食代が少なくなる傾向にある少人数の日帰り旅行客が近年、増えていることが影響している」とみている。